

# 天草誕生のストーリー

## 第3章

## 火山と地殻変動

(地質時代：新生代新第三紀から第四紀)

新生代新第三紀は九州から瀬戸内海沿岸地域で活発な火成活動が起きた時代です。また、この時期に地殻変動も起き、天草地域の褶曲構造が形成されました。これが天草諸島の原型をつくっています。

### ストーリー 7 天草陶石を生んだ火成活動と褶曲の形成

新生代中新世の初め頃(約2,000万年前)、アジア大陸の東岸では日本海が開きはじめ、九州の大地は横からの圧力で、これまで堆積した地層が隆起・傾動し、天草地域の大きな褶曲(しゅうきよく)構造を生み出したと考えられます。天草地域では1,900万年前から1,300万年前にかけ、福岡半島と天草上島では花崗岩類が貫入し天草下島西海岸では陶石を生む岩脈と熱水活動が連続して起き、良質の陶石の原材料が生成されました。また天草上島では地層中にマグマが貫入する火成活動が起き、倉岳ができます。その後、1,000万年前から700万年前の期間は冷え固まると黒色になる性質のマグマが活動しました。

### ストーリー 8 大矢野島・長島の火山活動と佐伊津層の形成

新生代鮮新世の約400~300万年前、大矢野島と鹿児島県長島では火山活動が活発に起きていました。大矢野島周辺では飛岳・柴尾山・白濁・大山・大矢野岳・高空島などに代表される小火山が形成されています。同じ頃、天草下島南方にある長島の火山活動も活発で、噴出した岩石は牛深地域南部の下須島まで到達し、法ヶ島の獅子吼岬にその一部を見ることができます。天草下島北部では火山起源の土砂と動物・植物(メタセコイヤや、ツゲ、ブナ、カバノキの仲間)が河川や湖に堆積し、佐伊津層が形成されました。この佐伊津層が作りだした平坦面は現在の天草空港として利用されています。



火山活動が活発な時期の大矢野島周辺地域

### ストーリー 9 阿蘇火砕流の到達

約9万年前、阿蘇山は4回目の大規模な噴火活動を起こしました。そのとき流れ出した火山ガスと岩石片からなる火砕流堆積物(阿蘇-4)は、天草下島まで到達しました。

## 第3章に関連する「見どころ」

### 1 天草砥石の露頭

所在地 上天草市大矢野町



木目状の縞模様が美しい「天草砥石」。白い(※)流紋岩が地下水の影響で、岩石内部に酸化鉄の茶色の縞目が自然にできたものと考えられています。建築石材や生活用品として昔から使われています。砥石の露頭付近では地下深から温泉が得られています。

※流紋岩：マグマが地表付近で冷え固まった岩石の一つ。白色の岩石。

### 2 湯島層の化石と玄武岩

所在地 上天草市大矢野町



湯島では、約100万年前の浅い海で堆積した湯島層と、島の中央部の高台をつくる約82万年前に噴出した玄武岩がみられます。湯島層からは内湾に生息する生き物の化石が産出します。玄武岩の風化した土壌からなる高台では「湯島だいこん」が生産されています。

### 3 高空島

所在地 上天草市松島町



大矢野島周辺には、約300万年前に噴出したとされる小火山が見られます。その中の高空島では、(※)角閃石を多く含む(※)安山岩から成り、島の形の美しさから天草富士とも呼ばれています。

※角閃石：火山の岩石に含まれる鉱物。細長い柱状からつぶれた六角形の形をしている。  
※安山岩：地表に出てきたマグマが冷え固まった岩石のひとつ。灰色の原石。

### 8 獅子吼岬と海域公園

所在地 天草市牛深町



牛深港から発着するグラスボートによる遊覧で、日本奇岩百景の獅子吼岬をみることができます。この岬は約300万年前の長島の火山活動で噴出した火山砕屑物からできており、風化侵食により現在の形となりました。海中にはサンゴや熱帯魚をみることができます。

### 23 東禅寺の灰石露頭

所在地 天草市五和町



五和地域に分布する灰石は、地元の石材名で「御領石」とよばれています。この地層は、約9万年前に阿蘇火山が4回目の大きな噴火をしたときにこの地まで到達したもので、阿蘇-4火砕流堆積物とよばれるものです。露頭には石仏などが彫られています。

### 34 鳥嶋展望所

所在地 天草市御所浦町



東は九州山地、西は天草諸島、その北西には雲仙普賢岳まで一望できる360度パノラマの景観。日本列島の成り立ちを知ることができる貴重な場所です。広場に野外展示されているアンモナイトは、この場所がかつて海の底だったことを物語っています。

### 36 鬼海ヶ浦の地層と景観

所在地 天草市天草町

この場所は、国の名勝地や夕日八景に指定されています。7,500万年前に堆積した姫浦層群と、谷をつくる断層地形を挟んで約5,000万年前の白岳層、そしてそれらに貫入した白い流紋岩など、地質と地質現象が美しい地形・風景をつくりました。

### 11 権現山玄武岩

所在地 天草市久玉町・魚貴町



権現山の山頂には約700万年前に噴出した玄武岩が見られます。山頂部の赤紫色の土壌はこの岩石が風化してできたものです。この玄武岩は溶岩として陸上で流れた痕跡があり、この時代に天草下島の一部は陸であったことを示しています。

### 24 倉岳山頂の貫入岩

所在地 天草市倉岳町



倉岳は標高682mで天草地域では最も高い山です。この山では、山頂部や中腹部の小ヶ倉観音などに、約1,600万年前の安山岩質の貫入岩が敦良木層を貫いて露出しています。この貫入岩は硬く風化侵食に強いので、倉岳が周囲より標高が高く残っているのです。

### 48 小ヶ倉観音

所在地 天草市橋本町



安山岩質の貫入岩が敦良木層の黒色頁岩に貫入している現象が観察されます。この貫入岩の板状に割れた面に彫られた四文字の(※)梵字(ほんじ)は天草最古の1487年のものです。境内付近では、貫入岩が作りだした段差が滝となっており、信者が滝行を行っています。  
※梵字：仏教とともに中国を経由して伝来したブラーフミー文字の一種。

### 39 阿村の住吉神社の夫婦岩

所在地 上天草市松島町

住吉神社前の海岸にある夫婦岩は、約9万年前に阿蘇火山が4回目の大きな噴火をしたときにこの地まで到達した、阿蘇-4火砕流堆積物からできています。大きな岩は高さ5メートル、周囲16メートルあります。小さな岩はその形から「ゴジラ岩」とも呼ばれています。

### 22 まぐろ石(真黒石)の浜

所在地 天草市有明町



リップランドの海岸では、地下から上昇してきた高温の貫入岩の熱により、より緻密で硬くなった泥岩が、黒く丸く磨かれてツルツルの石として多くみられます。地元では「まぐろ石」(真黒石)とよばれています。

### 26 白岩崎

所在地 天草郡苓北町



白岩崎は海水浴場から延びる遊歩道を歩いて5分ほどの、真っ白な流紋岩の露出する場所です。福岡半島西海岸には、敦良木層を貫く複数の貫入岩類がありますが、その中でもこの貫入岩は最も白いので、よく目立ちます。以前は陶石としても採石されていたようです。

### 52 御領凝灰岩の風化地形と石仏群

所在地 天草市五和町



風化侵食によってできた横壁の窪地地形を、地元の人々は「大蛇が通った跡」として、窪地に石仏100体を安置しました。地層に生じた自然の造形を神聖な信仰の場とした、いにしえの人々の息吹を感じるスポットです。

### 54 天草陶石採石跡の露頭

所在地 天草郡苓北町

天草西海岸で採石される陶石は、品質、埋蔵量ともに日本一といわれています。(※)中新世のマグマ活動によって流紋岩が陶石化してできた岩石です。有田焼など、県外の焼き物産地に磁器の材料として出荷されています。

※中新世:約2,300万年前~533万年前までの地質時代のこと。